

報 告

思春期ピアカウンセリング事業

－赤穂健康福祉事務所の取り組み－

Adolescence peer counseling project – an approach of Ako Health and Welfare Office –

松島 可苗¹⁾
塚本 信子²⁾
八木ゆかり³⁾

1. はじめに

平成12年に厚生労働省は、21世紀の母子保健の取り組みの方向性を示し、関係者、関係機関・団体が一体となって推進する国民運動計画「健やか親子21」を策定した¹⁾。その4つの主要課題の1つに思春期の保健対策の強化と健康教育の推進が掲げられた。具体的な取り組みとして、思春期の健康と性の問題に質的な転換を図ることが提言され、その中に同世代の仲間による取り組みの推進が明記された。

このような方針の下、兵庫県では平成15年～17年度に柏原健康福祉事務所において先駆的に「思春期ピアカウンセリング事業」を実施し、平成18年度から「ひょうご子ども未来プラン」の一つに位置づけ、全県下で事業を実施することになった。事業目的は、思春期ピアカウンセラーを養成、活用し、若者が「生（いのち）と性」についてともに考え、自らが望む時期に妊娠、出産し、積極的に育児に携わることができる将来の親づくりを行うことである²⁾。

ピアカウンセリングとは、思春期の若者を対象に、彼らの性=生の自己決定能力を支えるために仲間（ピア）というキーパーソンを活用した健康教育・性教育の一方策である³⁾。

今回、赤穂健康福祉事務所（以下、赤穂事務所）が県立高校で実施した思春期ピアカウンセリング事業（以下、

事業）について高校生への質問紙調査結果を中心に報告する。

2. 事業の概要

1) 思春期ピアカウンセラー養成講座（以下、養成講座）

兵庫県では、大学生や専門学校生を思春期ピアカウンセラーとして養成した。養成にあたっては、NPO ひょうご思春期ピアカウンセリング研究会に委託し、希望者が参加した。養成講座は前期4日間、後期2日間で構成されている。前期は、ピアカウンセリングを行う実践能力を身につけるため、①ピアカウンセリングに関する知識、②セクシュアリティに関する知識、③ピアカウンセリングの実践について学習する。後期は、ピアカウンセリングを実施した後に開催され、実践を通しての悩みや思いを共有し、ピアカウンセラーのエンパワーを強化し、さらなる活動実践ができるようにしている。後期の講座内容は、①活動のふりかえり、②エンパワーメント、③セクシュアリティ再確認、④ピアカウンセリングブラッシュアップである。なお、この養成講座には兵庫県が一部助成金を出し、参加者の自己負担金の軽減を図った。

2) 赤穂事務所思春期ピアカウンセリング事業

養成講座の前期4日間で修了し、事業への参加を希望したピアカウンセラーが、高校生等を対象に性に関する集団、個別指導を行うものである。

今回、ピアカウンセラーとして事業に参加したのは、赤穂事務所管内の大学に所属する看護学部女子大学1年生4名である。実施にあたっての連絡調整は、赤穂事務所保健師を中心に高校養護教諭・大学

2006年12月8日受付/2007年1月31日受理

- 1) Kae MATSUSHIMA
関西福祉大学 看護学部
- 2) Nobuko TSUKAMOTO
赤穂健康福祉事務所
- 3) Yukari YAGI
赤穂健康福祉事務所

教員で行い、プログラム内容はピアカウンセラーが計画した。

3. 調査方法

1) 調査対象と方法

赤穂事務所管内にある県立高校1年生1クラス40名を対象に、保健の授業を活用し、ピアカウンセラーがプログラムを計画、実施した(表1)。授業終了時、無記名自記式の質問紙をピアカウンセラーが配布・回収した。質問紙の回収には、高校教員の目にふれないように配慮した。

2) 調査内容

調査内容は、プログラムの満足度、プログラム内容の理解、ピアカウンセラーの適任者など、12項目であった。

3) 分析

分析は、Microsoft Excelを用いて行った。

4. 結果

1) 対象の属性

対象1クラス40名のうち、授業参加者は37名、全員女子であった。

2) プログラム満足度(表2)

生徒の授業への満足度を0%~100%で回答を得た結果、平均80.9%(±14.7%)、最低50%・最高100%であった。

このような授業をどのように思うかという設問では、「行ったほうがよい」と回答した者が94.6%の割合を占めた。

人生や性についてオープンに話すことができたかどうかを尋ねた結果、「まあまあできた」と回答した者が67.6%、人生や性について真剣に考えることができたかどうかという設問では、「できた」と回答した者が62.2%であった。

3) プログラム内容の理解

表1. プログラム内容
テーマ：自分も相手も大切に

時間	学習項目	内 容	活 動 方 法	教員等の動き
10:40	紹介 ラポールゲーム	ピアカウンセラーの紹介 ジェスチャーゲーム	養護教諭からの紹介。 ピアカウンセラーがスケッチブックにお題(24個)を書き、それをジェスチャーで表現しチームの人に当ててもらう。	教員等退室
11:00	恋愛観	みんなの恋愛観を聞いてみよう(なぜ人を好きになるのでしょう?) グループワーク まとめ	4グループにわかれ、話し合う。各グループにピアカウンセラーが入る。 数人に感想、意見を聞く。 アンドロギュノスの童話を読む。	
11:20	休憩			
11:30	男女交際 (付き合い方になってから)	ロールプレイ 「彼にせまられたら？」 グループワーク まとめ	もしも大好きな彼氏にせまられたらどうする?という劇を二度する。 一度目→避妊をしてくれない場合 二度目→避妊してくれる場合 劇を見もらったあとグループに分かれて自分ならどうするかを話し合ってもらおう。 数人に感想、意見を聞く。	
12:10	避妊の話	多様な避妊具と使い方を知る まとめ	絵を見せ、避妊具の種類と使用方法 避妊の成功率を説明する。 異性と付き合い方になった場合、自分も相手も大切にしてほしい、自分の意見を言ってほしい等のメッセージを伝える。	教員等入室
12:20	アンケート			
12:30	終了			

表2. プログラム実施後のアンケート結果

<プログラム実施について>	人数 (%)			
	行ったほうがよい	行わないほうがよい	わからない	
このようなプログラムをどのように思うか	35 (94.6)	0 (0.0)	2 (5.4)	
<プログラムへの参加>	できた	まあまあできた	できなかった	
人生や性についてオープンに話せたか	6 (16.2)	25 (67.6)	6 (16.2)	
人生や性について真剣に考えられたか	23 (62.2)	12 (32.4)	1 (2.7)	
<プログラム理解度>	よくわかった	まあまあわかった	あまりわからなかった	
男女交際について	27 (73.0)	10 (27.0)	0 (0.0)	
自分の気持ちの上手な伝え方	13 (36.1)	22 (61.1)	1 (2.7)	
避妊について	33 (89.2)	4 (10.8)	0 (0.0)	
<ピアカウンセラー相談>	相談したい	他の人に相談したい	わからない	
悩みがある場合、ピアカウンセラーに相談したいと思うか	18 (48.6)	2 (5.4)	15 (40.5)	
<ピアカウンセラー適任者>	同じ高校の生徒	他の高校の生徒	大学生	その他
ピアカウンセラーは、どのような人が適切だと思うか	4 (10.8)	2 (5.4)	26 (70.3)	2 (5.4)

授業内容について、「よくわかった」「まあまあわかった」「あまりわからなかった」の3段階で回答を得た。その結果、男女交際と避妊については「よくわかった」と回答した者が73.0%、89.2%であった。自分の気持ちの上手な伝え方については「まあまあわかった」と回答した者が61.1%であった。

4) ピアカウンセラー適任者

悩みがある場合にピアカウンセラーに相談したいと思うかという設問の回答率は、「相談したい」48.6%、「わからない」40.5%と二分化した。

ピアカウンセラーの適任者については、「大学生」と回答した者が70.3%であった。

5. 考察

本事業を実施した質問紙調査結果から、プログラム満足度、プログラム内容の理解、ピアカウンセラーの適任者について考察していく。

1) プログラム満足度

生徒のプログラム満足度は平均80.9%であり、このようなプログラムを「行ったほうがよい」と回答するものが94.6%と非常に高い割合を占めていたことから、本事業は高校生にとって受け入れやすい内容であったといえる。日本性教育協会の調査⁴⁾によると、高校生が性教育で教わったと回答する者が10%以下と低かった項目は「異性との交際の仕方」「愛とは何か」「性は人生にどういう意味をもつか」「性に関する不安や悩みの相談にのってくれるところ」であった。今回のプログラムでは「男女交際」や「恋愛観」について学習しており、これまでの教師主導型の性教育では扱われにくかった内容に取り

組むことができたといえる。また、これらの内容は知識とは異なり個人の価値観が影響する問題であるため、グループワークを用いることによって様々な考え方があることを知ることができたと考えられた。知識伝達は教師主導型での教育効果が報告されており⁵⁾、ピアカウンセラーだからできる内容を明確にし、一連の学校教育の一部として位置づけておくことが重要であると考えられる。

2) プログラム内容の理解

プログラム内容について、「男女交際」と「避妊」については「よくわかった」と回答した者が73.0%・89.2%、「自分の気持ちの上手な伝え方」については「まあまあわかった」と回答した者が61.1%と最も多い結果となった。

男女交際については、恋愛観に関するグループワーク後にアンドロギュノスの童話を用いた説明を行っていた。その説明内容は、①人を好きになることは自然なことである②自分の気持ちを押し付けたり相手を傷つけてはいけないということであった。グループワークで自分たちの意見を出し合った後、さらに説明を追加したことで理解を深められたと考えられた。

避妊については、男女交際に関するグループワーク後に説明を行っており、生徒たちの関心を高めた上で実施できたと考えられる。

自分の気持ちの上手な伝え方については、グループワークを通して友人たちの様々な意見を聞き、自分の意見を大切にすることを授業のまとめで行った。しかし、その意見を相手にどのように伝えるかというロールプレイは実施していなかった。そのため、

「よくわかった」と回答するまでの理解を深められなかったものと考えられる。知識、態度、価値観を現実の「何を、どのように行うか」という能力に結びつけることを促進するものとしてライフスキルがある⁶⁾。ライフスキル教育では、観察学習、経験学習、相互作用的な学習過程が重視されている⁷⁾。他者のスキルを観察し、フィードバックすることによってスキル学習が促進されることから、今後はグループワーク後にロールプレイも含めることも必要であると考えられた。

3) ピアカウンセラーの適任者

ピアカウンセラーの適任者については、「大学生」と回答した者が70.3%であった。これは、今回のピアカウンセラーが大学生であったことの影響が大きいと思われる。大学生が高校生にピアカウンセリングを行う場合、日常にかかわることは困難である。そのため、悩みがある場合にピアカウンセラーに相談したいと思うかという設問の回答率が、「相談したい」48.6%・「わからない」40.5%と二分化したと考えられる。また、ピアカウンセラーが養成講座でどのような内容を学習しているのか、役割は何かを明確にしておくことも重要であると考えられた。

4) 今後に向けて

本事業について、赤穂事務所管内の高校等に活動報告を行い、事業のPRを図っていく予定である。今回は、女子大学生から女子高校生への授業であったが、恋愛観や男女交際に関しては、異性の考え方をすることも重要である。次年度以降の事業展開に取り入れることを考えている。

文献

- 1) 厚生統計協会：厚生指標 臨時増刊 国民衛生の動向，厚生統計協会，53（9），2006.
- 2) 兵庫県少子対策本部：兵庫県次世代育成支援行動計画—ひょうご子ども未来プラン—，兵庫県，2006.
- 3) 松本清一，高村寿子：性の自己決定能力を育てるピアカウンセリング，小学館，1999.
- 4) 日本性教育協会：「若者の性」白書—第5回青少年の性行動全国調査報告—，小学館，2001.
- 5) 宇野暢恵，荒木田美香子，戸川僚子：中学生を対象としたピアエデュケーションによる性教育の有効性の検討，思春期学，23（3），318—327，2005.
- 6) 川畑徹朗，西岡伸紀，石昌弘，石川哲也：WHO・ライフスキルプログラム，大修館書店，1997.
- 7) 荒木田美香子：なぜ、いま、ライフスキルなのか，保健師ジャーナル，62（5），346—351，2006.